SATURN NEWS
平成27年03月
27-07

新規受託項目のお知らせ

謹啓　時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
　平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。
　さてこの度、平成 27 年 2 月 1 日より検体検査実施料が新規収載されました下記項目の検査受託を開始することとなりました。
　取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

謹白

記

新規受託項目

● 1797　IgG2

検査要項

項目コード	1797
検査項目名	IgG2
検体量/保存方法	血清　0.4mL / 冷蔵
検査方法	ネフェロメトリー法
基準値	208～754　mg/dL （免疫グロブリン補充療法における適応基準：80mg/dL 未満）
所要日数	4～6 日
検査実施料	388 点 （[D014] 自己抗体検査 「29」 IgG_2）
判断料	144 点（免疫学的検査判断料）
備考	原発性免疫不全等を疑う場合に算定できます。算定に当たっては、その理由および医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

受託開始日

● 平成 27 年 3 月 9 日（月）受付分より

札幌臨床検査センター株式会社
SAPPORO CLINICAL LABORATORY INC.

IgG2

免疫グロブリン IgG は分子量約 14 万 6000 の糖タンパクで B 細胞により産生され、IgG、IgA、IgM、IgE、IgD の 5 種類の免疫グロブリンのうち最も多量に存在し、全免疫グロブリンの 2/3 以上を占めます。IgG は液性免疫としてヒトを感染症から防御する重要な役割を持っています。

IgG はさらに免疫グロブリン分子のヒンジ領域と H 鎖(Heavy chain)間の S-S 結合のタイプによりサブクラス IgG1～4 に分類されます。IgG は免疫グロブリンの中で唯一胎盤透過性を持ち胎児に移行するため、乳児は母乳に含まれる IgG 抗体とともに数か月間母体由来の抗体により感染症から保護されます。

「IgG サブクラス欠損症」はサブクラス 1～4 のうち 1 つ又は複数の成分が欠乏していることを意味し、原発性免疫不全症のカテゴリーの中で体液性免疫不全症として位置付けられています。

IgG の中で、IgG2 は IgG1 と共に特異抗体活性を持ち、細菌の多糖体抗原、特に肺炎球菌やインフルエンザ菌の感染防御において中心的な役割を担っています。IgG2 欠損症は反復性の中耳炎や気管支炎及び肺炎などの感染症を引き起こすことが知られていますが、易感染性を示さない症例も存在します。一般に IgG2 の血中濃度は、年齢にもよりますが 30mg/dL 以下を欠乏症とし、30～80mg/dL を要観察域とされています。

2015 年 2 月に日本血液製剤機構の免疫グロブリン製剤「献血ヴェノグロブリン®IH5%静注」の効能・効果として「血清 IgG2 値の低下を伴う、肺炎球菌又はインフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎、急性気管支炎又は肺炎の発症抑制(ワクチン接種による予防及び他の適切な治療を行っても十分な効果が得られず、発症を繰り返す場合に限る)」が追加されました。効能・効果に関する使用上の注意の一つに「血清 IgG2 値 80mg/dL 未満が継続していること。」と記載されており、同製剤の投与には予め血清中の IgG サブクラス IgG2 検査により、血清 IgG2 値が 80mg/dL 未満であることを確認することが求められます。

総 IgG は基準値幅が広く、仮に IgG2 の欠乏があるとしても総 IgG 濃度が低くなるとは限らず、総濃度に反映されない場合も多く認められます。

IgG サブクラス IgG2 検査は IgG2 欠乏症の診断、および免疫グロブリン製剤の投与時に必要な検査です。